



『トクシマ・アンツアイガー』

第2巻

第16号

徳島

1916年1月9日

情勢についての帝国宰相の見解

前年の12月9日、帝国宰相フォン・ベートマン・ホルベークは招集された帝国議会で比較的長い演説を行い、前回の8月10日の会議以降に生じた状況と変化について概観した。ここで、われわれはその内容の主要な部分を再現したい。

帝国宰相はまず、新しい同盟国のブルガリアについて心のこもった言葉で次のように述べた。フランスとイギリスが出兵支援を試みたにもかかわらず、この国と一体となってセルビアの軍隊を打ち破り、われわれの友であるトルコと直接に結びつくことに成功したと。帝国宰相は、オリエントへの道が「われわれの歴史ばかりでなく、世界史の転期となる」と述べた。

次いで、帝国宰相はイギリスの行動を次のように明らかにした。われわれがベルギーの中立を侵犯したという理由だけで、イギリスはギリシアに

対し武力に訴えた。すなわち、あらゆる手段によってイギリスは、ギリシアを多国同盟の願いに強制的に従わせようとしたと。

軍事状況について、帝国宰相は以下のように述べた。「東部では、われわれの部隊は遙か前方に押し出し適切に建設した陣地を一時的に放棄し、オーストリア・ハンガリーの部隊と共に、新たな行動に出る準備を怠りなく進めた。西部では、われわれは陣地をしっかりと掌握した。別言すれば、シャンパーニュ地方のフランス人は最近の攻撃だけで、1870-71年の戦争〔普仏戦争〕全体でドイツが投入したのと同じ位の兵力を投入したと推測できる。これも一重に、ドイツの自由のためにそこで命をかけて戦ったわれわれの戦士のお蔭である」。

彼の演説の大部分を占めたのは、前線の背後で行われた作業についてである。

ベルギーでは、農業と工業がほぼ通常の状態を回復することができた。義務教育！が導入された。ベルギーでは全く欠けていた労働者保護法の実施も開始された。

ポーランド、リトアニア、そして「部分的」にはクールランドでの、ロシアによる途方もない破壊をほぼ完全に取り除くことができた。これらの地域で、4,000以上の道路が建設された。ワルシャワでは総合大学と工科大学が再開された。しかも、講義はポーランド語で行われる。帝国宰相は演説のこの部分を次のような発言で締め括った。「何百万人が前線にいる一方、前線の背後ではそうした平穏な労働が行われた戦争は、世界史上かつてなかった。それはフン族の戦争のようでもなかったし、消耗戦のようでもなかった」と。

帝国宰相は経済状態についての説明を、「正確に分配されるならば、食糧は十分にある」という言葉で始めた。戦争によって経済的に被害を受けた者や破綻した者の犠牲的行動を、彼は次のような言葉で評価した。「私は彼らの戦うという物静かな英雄的精神を大いに賞賛すると同時に、彼らにも祖国からの熱烈な感謝が当然与えられてしかるべきである」と。そして敵ばかりでなく、われわれ自身もまた戦争前のわれわれ自身の力を過少

評価していたと帝国宰相は断言した。

帝国宰相は演説を次のような発言で締め括った。「私は、戦場での状況をありのままの姿で描こうとした。事実をありのままにである。われわれの計算では、岩のように堅い勝利への確信を揺がし得るような不確かな要素はない。もし敵が今事実を認めようとしないなら、彼らは後になってそうしなければならないだろう。ドイツ国民はびくともしないし、自分の力を信頼する点において無敵である。勝利から勝利へと前進し、遙か敵国の奥深くにいるわれわれが、なお勝利を夢見ている敵に内的なモラル上の力量の点で及ばないというのであれば、そのことはわれわれを侮辱するに等しい。さて、みなさん、われわれは言葉に屈してはならない。ドイツの未来が要求しているものを完成するために、われわれは敵が望んだ戦いを断固戦い抜くのである」。

一人一人の真のドイツ人の魂から語られる男らしい力強い言葉は大袈裟ではなく、物静かで客観的である。そしてその言葉一つ一つを取り上げて見れば、それは棍棒で一撃を加えるような力を持つ。アスキスやブリアン¹といった人物が空想的なお喋りをしているのに、そもそもこうした関連においてこの二人の名前を挙げることは侮辱された気分にするのに十分である。

日本での塩の生産

日本で消費される塩は、主として海水から得られる。津田の浜を散歩すれば、たくさんの塩田に出会う。低いところにある暗灰色の大きく平らな砂地に、側面を囲いで囲み、たくさんの水路があちこちに走っている。水路の間にある区画には、正方形の開いた容器、すなわち箱と呼ばれるものが等間隔に置かれている。その前には、小さな潮溜まりがある。水路は、海から引かれた運河と結ばれている。満潮と共に海水が塩田に氾濫し、柔

1 当時のイギリスおよびフランスの首相

かくほぐした塩田の表面をたっぷり浸す。干潮のときに塩田は干上がり、塩がしみ込んだ表面が大きな熊手でほぐされ、乾いた砂が集めれる。次いで、集められた砂が容器にざぁーと流し込まれる。容器の底は木製の簀子から成っており、その上に稲藁が置かれている。容器の側壁は大部分は土で、時折は木材から作られている。さて、容器のなかの砂に何度も海水が注がれ、砂から塩分が取り除かれて容器の底に染み渡り、高濃度の塩水として穴を通して容器の前に埋められた桶のなかに流れ込む。その塩水はおよそ 17 ボーメ度の塩分を含んでいる。それは、釣瓶井戸に通じる剥き出しの特殊な配管に通じ、煮沸小屋に通じる配管へと再び汲み上げられる。煮沸小屋はきわめて簡単な造りである。それは、人の背の高さ位の壁で囲まれた長い藁屋根をもつ棟で、水蒸気を通すために開閉できる大きな吐き口を備えている。屋根の上に立ち上る白い水蒸気は、塩の精製所が操業中であることの証である。精製所の真ん中には、約 2×4 m の大きさの塩釜が置かれている。塩釜は薄い鉄板製で、その縁はおよそ 15cm の高さがあり反り返っている。塩釜には縁がついているだけで、窯の底の真下では火が燃えている。小屋の真ん中の太い梁に架かり窯の底を支えている鉄製の釣鉤は、鉄板がたわむのを防いでいる。外から引かれた塩水は大きな木製の桶に注ぎ込まれ、そこから窯へ注ぎ移される。その窯は 24 時間以内に 9 回満たされる。煮え立たせるために 1 日 500 貫以上の石炭を消費し、1 回の沸騰で 240 貫の塩を生産する。沸騰が始まると、小さなブリキの平鉢が窯のなかへ入れられ、塩水に含まれている石灰がそのなかに集まる。石灰はもう有効に利用されることはない。沸騰して抽出された塩はどろどろの状態、更に木製の濾過器に詰め込まれる。すると、さらに苦いソーダを含んだ液体が流れ落ちる。その液体は、ソーダ水用炭酸とハエ取りもちの製造のために利用される。この液体の活用は、製塩労働者の権利である。日本では塩は税が付加される。そのため、値段が非常に高い。約 15 年前は 1.5 銭であったのが、今では 8 銭である。塩の生産は、ほとんど大企業家の手に握られている。

演 劇

元日に、われわれの演劇は第3回の上演を行った。すなわち、ローデリッヒ・ベネディクスの『下僕』が上演された。

詩的に創造するベネディクスのやり方について— この戯曲は彼の創作にとってまさに独得なものである — われわれは前の号で述べたところである。

上演は、あらゆる点で戯曲の無邪気な愛すべき性格に応えるものであった。そのため、俳優も演出も最善を尽した。この戯曲を上演する場合、甚しく誇張された演技や女性役の精巧な服装があれば、もっと大きな舞台効果、もっと大きな笑いの効果があったことだろう。しかし、われわれの演劇はそれを諦めた。にもかかわらず、上演の芸術上の仕上がりは予想通りの反響を呼んだ。

戯曲の始まり頃、俳優たちは自分の役に馴染んでいなかったように思われる。だが、やっといくらか体が温まるにつれ、彼らは元気よく活発に演じた。これは、一幕物がもつ性質からくる現象である。というのは、一幕物には、より高度なスタイルのドラマの開始の合図を告げる朗々と遠くまで響く和音が欠けているからである。戯曲全体の雰囲気の中へ俳優も聴衆も引き入れる和音が欠けているからである。しかも、そうした雰囲気のいくらかは舞台装置によって左右される。たとえば、上手に仕立てられた舞台衣装によって左右される。

役は次のように割り振られた：クリスティーネ役として二等海軍砲兵カンプツィーク、ハンヒェン役として一等海軍砲兵シュマーレンバッハ、アントワネット役として二等海軍砲兵バンティーエン、アウグスト役として志願兵ケンプフ、フィリップ役として二等海軍砲兵クノープ、グレートヒェン役として二等海軍砲兵コッホ、ハンス役として二等海軍砲兵ブロンナー、アンドレアス役として志願兵カンダルスキが割り振られた。

われわれは、「一晩中愉快地に無邪気に楽しく過ごした」。われわれの俳優

諸君が R. ベネディクスの『下僕』よりももっと深刻でもっと内容の濃い戯曲に挑戦することができるということを、上演は示してくれた。

戦争俘虜のためのクリスマス・ツリー

1 月 1 日付けの『ジャパン)・アドヴァタイザー』誌はこう述べている。日本にいるドイツ兵戦争俘虜に対し、再びキリスト教青年日本協会（日本 YMCA）からクリスマス・ツリーが送られて来た。あちこちの収容所から到着した将校たちの感動的な感謝の手紙は、ホームシックにかかった兵士たちが故郷で大切にしていた盛大な祭典を思い出し、大いに感動した有様を示している。昨年同様、ツリーは本物の「樅の木」で、ササオ博士が指導するその協会の会員によって仙台周辺から調達された。

昨年送られて来たツリーは 50 本に過ぎなかったが、今年は大小併せて約 100 本のツリーが到着し、その数は比較的大きな収容所の共同の寝室それぞれに 1 本ずつ配るに十分な数であった。

「青年キリスト教協会」の調査の結果、俘虜たちが特に望んでいる贈物は、まず第一に石鹼と歯磨き粉であった。そこで「ライオン」歯磨き会社製の石鹼 1,000 個と歯磨き粉 1,000 パックの寄贈と各俘虜に 1 つずつ計 4,750 パックの「クラブ」歯磨き会社製の歯磨き粉の寄贈の要請がなされた。こうして贈物は、ツリーと同様、帝国鉄道によって、運送費無料で運ばれた。ツリー及びその他の物資を調達するための費用全てを、仙台在住の日本の友人と日本 YMCA 委員会がもっぱら引き受けた。

アメリカ在住の友人の寛大な援助のお蔭で、およそ 600 円相当のドイツ書籍と刊行物の贈り物が近々協会に到着する予定である。その金額はドイツ在住の代理人によって集められたのであった。

不幸なことに、ほとんどのハンガリー人俘虜はドイツ語を読むことができない。しかし、スイスにあるキリスト教青年協会中央委員会によってハンガリー語の書籍を特別に収集する措置がとられた。

25 の宣戦布告

1915 年 11 月 2 日付の『ヴィルヘルムスハーフェン日報』は次のように示している：ブルガリアへのイタリアの宣戦布告によって、宣戦布告は 25 に達した。世界的規模の戦争が始まったのである：

1914 年

オースリア	対	セルビア	7 月 28 日
ドイツ	対	ロシア	8 月 3 日
ドイツ	対	フランス	8 月 4 日
イギリス	対	ドイツ	8 月 4 日
ドイツ	対	ベルギー	8 月 5 日
オーストリア	対	ロシア	8 月 6 日
セルビア	対	ドイツ	8 月 7 日
モンテネグロ	対	オーストリア	8 月 8 日
モンテネグロ	対	ドイツ	8 月 12 日
イギリス	対	オーストリア	8 月 13 日
フランス	対	オーストリア	8 月 13 日
ドイツ	対	日本	8 月 9 日
オーストリア	対	日本	8 月 22 日
オーストリア	対	ベルギー	8 月 28 日
ロシア	対	トルコ	10 月 30 日
イギリス	対	トルコ	11 月 2 日
フランス	対	トルコ	11 月 2 日
セルビア	対	トルコ	11 月 2 日

1915 年

イタリア	対	オーストリア	5 月 23 日
イタリア	対	トルコ	8 月 20 日
ロシア	対	ブルガリア	10 月 4 日

イギリス	対	ブルガリア	10月16日
セルビア	対	ブルガリア	10月16日
フランス	対	ブルガリア	10月16日
イタリア	対	ブルガリア	10月19日

宣戦布告がこのように連続して出されたのは、世界史上いまだかつてなかったことである。

チェス・コーナー

(駒の略語 K=キング、D=クイーン、L=ビショップ、
S=ナイト、T=ルーク、B=ポーン)

第75問の解答

1. Te7 - g7 任意の手
2. DかSで詰み

第76問の解答

1. Sd6 - c4 b5 x c4
2. Se3 - d5 任意の手
3. Ta1 - d1

第75問の正解を寄せたのは、ヨーゼフ・ヴェーバーである。

第77問

白：Kd8, Dd6, Tc2, e5, La5, h3, Sb4, e4

黒：Ke1, Lc1, Sa2, Bd2, e6, g2

2手詰め

第78問

白：Kh6, Db4, Tf6, Sb6, Bc5, e3, g5

黒：Ke5, Da1, Tg2, Se6, Be5, f7, h4

3手詰め

S. E. マイヤー = ワルデック総督殿から

収容所でクリスマスを祝う言葉に対して、以下のような電報による返事が到着した。

心からクリスマスのお祝いと新年のご挨拶を申し上げます。

マイヤー・ワルデック

徳島における最初のヨーロッパ食肉販売業！

次週のお勧め

極上のサラミ	50 銭
極上のメットヴルスト（蒸し煮）	35 銭
極上のガーリックソーセージ	35 銭
極上のブラウンシュバイガー	35 銭
極上のモルタデラ	40 銭

謹白

オットー・ハナスキー



シュピーゲル（鏡）

『トクシマ・アンツアイ
ガー』第2巻第16号
(1916年1月10日)
ユーモア付録

収容所生活から。「新年」
今日はどこへ 出かけようか？



1916年1月2日
午後1時から
フルオーケストラ
大コンサート

夕方
ダンスパーティー
大広間で

脂肪物語！



鉋をかけると鉋屑がでる。

これは真実のことであるが故に、私は語るのである。

収容所で栄えている店、

日々人々を引きつける店について

収容所ではお金を払えば、また優しい言葉をかければ、

ソーセージを買うことができる、質の良いものと質の悪いものでも。

さらに豚脂を、十分に焼いて抽出された豚脂を、

欲しい人にはお勧めする。

いま、これら全てのものが製造される場合、

いろいろな物が出てくるが、そのことを笑う必要はない

だが、これは売ることができないため、

いわゆる靴クリームとなる。

ソーセージ製造業者殿は気前よく

この脂を只であげてしまった、1ペニヒを稼ぐことなく

彼には分っていた、激しい土砂降りの場合

濡れた足は、吐き気を催させるような不快な気分させることを

そして思った、靴にたっぷり脂をぬれば

この湿気から人びとをおそらく救い出せる、と

いま、これらの寄贈品が思わぬ影響を及ぼした

人は感謝し、脂肪を手に取り素早く走った

自分のロッカーへ、そしてとても快活に

食用脂のかわりに靴脂をパンに塗った

すると、笑ってそれを見ていた者が

私にそのことを語ってくれた、そこで私は思った

これらの脂肪のうち

靴脂と食用油脂を区別できないのではないか、と。

戦争ユーモア

チビはいたずらをしたせいで父親からぶたれた。彼は殴打された後、生みの親の前に立ち、そして言った。この時代に、同じドイツ人を殴打するとは全く信じられないと。



まるまる太った野蛮人の無事の誕生
によって大喜びした後備兵クネチュケと
妻（旧姓クヴァクテュッペル）。

時宜にかなったお知らせ！